

## III 消費者物価指数の概要

### 1 指数の性格

消費者物価指数は、全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に測定し、物価の変動を時系列的に測定するものである。すなわち、消費者物価指数は、家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用が物価の変動によってどう変化するかを指数値で示したものである。

### 2 指数算式

指数の算式は、基準時加重相対法算式（ラスパイレズ型）である。すなわち、品目  $i$  の基準時価格を  $P_{oi}$ 、比較時価格を  $P_{ti}$ 、ウエイトを  $W_{oi}$  とすれば、基準時を100とした場合の比較時の指数  $I_t$  を求める算式は、次のように表される。

$$I_t = \frac{\sum_{i=1}^n \frac{P_{ti}}{P_{oi}} W_{oi}}{\sum_{i=1}^n W_{oi}} \times 100 \quad (i : \text{品目、} n : \text{品目数})$$

### 3 指数の基準時及びウエイト参照年次

指数の基準時及びウエイトの参照年次は、令和2年の1年間である。

### 4 指数品目

指数計算に採用する品目は、世帯が購入する多数の財及びサービス全体の物価変動を代表できるように、家計支出上重要度が高いこと、価格変動の面で代表性があること、さらに、継続調査が可能であることなどの観点から選定した582品目とする。

### 5 価格資料

指数計算に採用している品目の価格は、総務省統計局実施の小売物価統計調査によって調査された小売価格によっている。

### 6 比較時価格

各調査市町村で調査された価格を用いて、月別、品目別、市町村別の平均価格を算出し、これを比較時価格として指数計算に用いる。

### 7 基準時価格

令和2年基準の指数計算に用いる市町村別の基準時価格は、「比較時価格」と同様の方法で求めた令和2年1月～12月の価格の単純平均である。ただし、生鮮食品については、月別ウエイトによる加重平均により算出されている。

### 8 ウエイト

2020年基準の指数の計算に用いるウエイトは、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ、家計調査による2019年及び2020年の平均1か月間1世帯当たり品目別消費支出金額を基に作成されている。なお、生鮮食品の品目別ウエイトは、2019年及び2020年の別消費支出金額のほか、2019年及び2020年の月別購入数量を用いて作成されている。